

第3章
中学生向け

中学2年生の授業実践

エネルギー問題は時として戦争をもたらす

- **授業のねらい** 私たちの現在の生活に欠かすことのできない石油と水について、エネルギーや水の確保は、戦争に発展するほど重要な問題であることを理解する。
- **授業の準備**
 - ① ホームページ「エネルギーで見る大東亜戦争」
(<http://www2s.biglobe.ne.jp/~k-tani/index.html>)
 - ② 「世界の水問題」 (<http://www.idi.or.jp/vision/wwv-02.html>)



- **熱中させるポイント**
 - 第1時限 当時（戦前）のアメリカと日本の関係を具体的な事実で示すことにより、石油が当時も今も生活に欠かせないものであり、かつほとんど輸入に頼っていたことを知り、子どもは当時の日本の状況に立ってエネルギー問題を考えることができる。
 - 第2時限 水問題に気づいていない子どもにインターネットの資料を提示し、補強する。そして異なる考えから作成された資料を複数提示することで子どもの意見が活発になる。

授業計画
・
・
・

第1時限	太平洋戦争の原因にアメリカとの石油問題があったことを知る。 当時の日本はどうすればよかったのか、子どもが自分なりに考える
第2時限	現在の世界の大きな問題の1つに水問題があることを知る。 日本は、水問題に対してどのように取り組むべきかを考える。



1.

1 時限め

「日・米兵器生産力」のグラフ

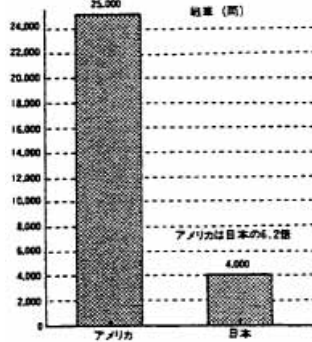
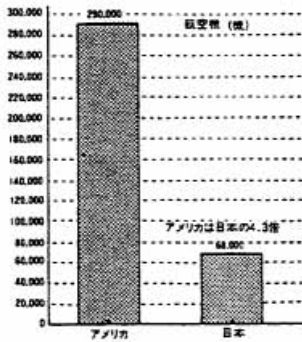


子どもへの指示

1

(下の資料を見せ) わかったこと、気づいたこと、思ったことを箇条書きしなさい。

●ホームページ「エネルギーで見る大東亜戦争」



左の資料から、日本とアメリカの当時の国力の圧倒的な違いに気づかせる。

そして、私たちの身の回りのほとんどのものが、石油を必要としていることを説明する。

子どもへの問いかけ

1

当時、石油のほとんどをアメリカから輸入していました。このアメリカが「石油を売らない」といったら、どのような事態になるのでしょうか。

列指名をしていくと、子どもからは「ものが不足して困る」「戦争になる」「暮らしていけない」といった意見が出る。

<説明>

当時、日本が1年間に必要としていた石油は、400万klでした。このうち日本が自国でまかなえた量は、30万klしかありませんでした。もし、アメリカから石油を輸入できなくなると、みなさんが考えたように国民生活に大きな影響が出ます。石油の備蓄量は、今でこそ170日間分ほどありますが、当時は60日程度でした。

子どもへの問いかけ

2

1941年8月アメリカが日本に対して石油の輸出を禁止しました。今同じ状況に立たされたらどうしますか。

ここで子どもは熱中する

事実を次々に示し、「さて次はどうする」と迫っていくと子どもの意見に真剣さが増す。

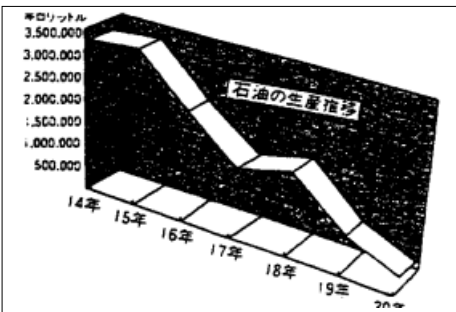
- 多数意見 : ほかの国から輸入する。
- 問いかけ : アメリカはほかの国も日本へ輸出しないようにした。さて、どうする。
- 多数意見 : 「アメリカと交渉する」「アメリカと戦争する」
- 問いかけ : 最初にアメリカと交渉しました。アメリカは「今まで獲得したすべての領土

を放棄すること」を要求します。さて、どうする。
 子どもの意見：「受け入れる」(多数)「受け入れない」(少数)
 問いかけ：今の感覚だと「受け入れる」かもしれませんが、当時の日本からすると「日清戦争以前に戻れ」ということで、受け入れることはできませんでした。

さて、次はどうする。
 子どもの意見：「弱い国を攻めて石油を奪う」「アメリカと戦う」
 説明：多くの人が考えたように、まずは、アメリカではなくインドシナに軍隊を進めて、石油を確保しようとしています。しかし、アメリカがそれを阻止します。さて、次はどうする。
 子どもの意見：「アメリカと戦争するしかない」

＜説明＞
 昭和20年には石油がほとんど底をつきます。そして、日本は戦争に負けることになります。しかし、石油を大量に使い、エネルギーの源を輸入に頼っている今の日本の置かれている状況は、ことエネルギーに関しては、戦争前とまったく変わっていないのです。

●ホームページ「エネルギーで見る大東亜戦争」



＜授業後の子どもの感想＞

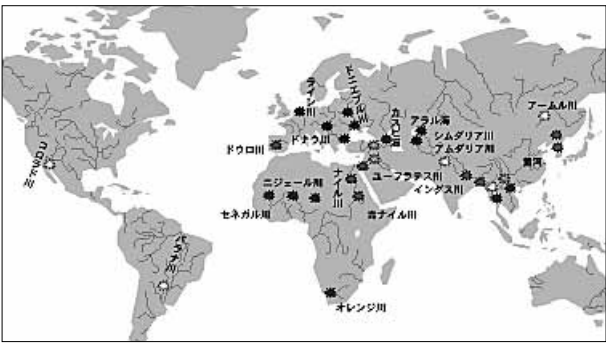
- ・石油が原因で戦争が始まったということがわかった。石油の必要性がすごく理解できた。
- ・アメリカの要求を受け入れておけばよかった。領土より国民のことを考えるべき。
- ・アメリカは日本が資源が少ないのに輸出を止めるのはひどい。

2. 2時限め 水紛争MAPから

子どもへの指示 2

(下の資料を見て) わかったこと、気づいたこと、思ったことを書きなさい。資料についている爆弾のような印は、ここで争いがあったことを示しています。

●ホームページ「世界の水問題」



- 子どもの意見
- ・川の近くで争いが起こっている。
 - ・アメリカで争いが無いのはなぜなんだろうか。
 - ・争いの場所が偏っている。
 - ・水が原因で争いが起こっている。

<説明>

世界では、水不足、水質汚染が問題になっている地域があります。
そして、水が原因で紛争に発展することもあるのです。

●ホームページ「世界の水問題」



ここで、用意してきた水に関するクイズやパズルを出題する。

<クイズ例>

以下の□に数字入れなさい。

- ・世界では水関係の病気で、子どもが□秒に1人死亡（答え8秒）
- ・世界では淡水魚の□%の種は、水質汚染で絶滅危機（答え20%）
- ・発展途上国の病気の□%の原因は汚水（答え80%）

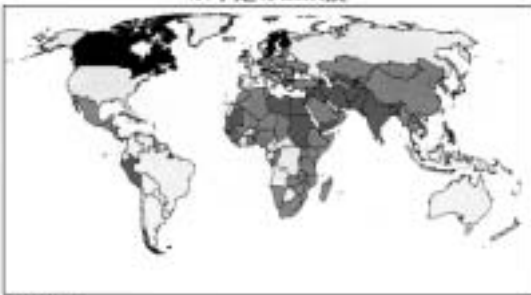
子どもへの
指示

3

日本は、水不足の危険はあるでしょうか。心配ないと考える人は○、少し心配だ考える人は△、水不足だと考える人は×を書いて、その理由を書きなさい。

●ホームページ「世界の水問題」

水不足の危険度



水不足の危険度
●危険なし □低 ●中 ●高 □ゾーラなし

最初は、○と考える子どもが多かったが、左のような資料をいくつか提示するうちに、全員が△の考えに変わった。

<授業後の子どもの感想>

- ・まさか水のために戦争が起きているとは知らなかった。
- ・日本は石油がなくて戦争に負けたのだから、ほかの所に戦争をさせないように水を援助するとよい。
- ・水不足で救いを求めている国がたくさんある。水について日本人はもっと考えていくべきだと思った。

ここで子どもは熱中する

「日本にも水問題があると主張する資料」と「日本は水が豊富であると主張する資料」を複数提示することで、子どもの思考が活発化する。